

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	25.0%	21.1%	84.4%	c	<ul style="list-style-type: none"> 特別展及び常設展において、当館所蔵作品721点中152点を展示した。特に『「木」と「遊び」美術館』展では、当館のコレクションの柱である木を素材とした作品を創意工夫を凝らして展示し効果的に活用した。 道内の美術館へ1件(3点)貸出しを行い、活用が図られたところだが、今後、さらに他の美術館に対して、所蔵作品の活用を図って行く必要がある。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用					
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				b	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は受贈により、6点の作品及び1点の資料を収集した。いずれも「木の造形」「道北の美術」という収集方針に沿った収集であり、収集方針を踏まえた日頃の作品の調査研究の成果であった。
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				b	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫や展示室の温湿度等を随時調査し管理することにより適正な保管環境を保持することができた。 今年度は、修復は行わなかったが、適宜、収蔵作品の状態把握を行い適切な管理が図られた。

【基本的運営方針】 Aの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	コレクションの活用、保管状況の適切さについては、一定の成果を上げることができた。 また、コレクションの充実については、当館の収集方針に沿った優品を受贈することが出来たが、今後も収集方針に基づく収集ができるよう取組みを進めていく。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	12,000人	6,354人	53.0%	b	・コロナ禍において、外出が抑制されていることや対策として入場制限を実施したため、観覧者数は指標の半分程度となったが、旭川ゆかりの作家に特化した展覧会においては地元に来館が多くみられるなど、満足度、リピート率とも目標を達成することができた。
	常設展示観覧者の満足度	80.0%	99.1%	123.9%		
	常設展示のリピート率	60.0%	72.3%	120.5%		
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	39,000人	9,973人	25.6%	c	・新型コロナウイルスの影響により、一番多く来館を見込んでいた「美術館に行こう！」展が中止となるなど、観覧者数は目標の3割にも満たなかったが、「京の美術」、「北の水彩」、「『木』と『あそび』美術館」の各展覧会とも他館との連携により質・量とも高レベルで開催でき、多様な来館者ニーズを捉え、満足度、リピート率とも目標を達成することが出来た。
	特別展示観覧者の満足度	80.0%	97.6%	122.0%		
	特別展示のリピート率	60.0%	74.6%	124.3%		
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	・インターネット上で展覧会を動画により紹介し、幅広い層への周知を行った。また、ファミリー層が来館しやすいよう、お盆時期に月曜開館を実施した。
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	・『「木」と「あそび」美術館』展では、五感で木を感じることをねらいに、配置の工夫や実際に手で触れて遊ぶおもちゃも設置し、木の持つ魅力を伝えるなど、展覧会ごとにねらいを効果的に表現するよう取り組んだ。
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	設定なし			b	・出張アート教室により学校での作品紹介を実施して充実を図っている。 ・これまで以上に、アートギャラリー北海道連携館等と協働を図り、館外展示の充実について取り組んでいく必要がある。
	その他の館外展示の状況					

【基本的運営方針】 Bの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	新型コロナウイルスの影響で常設展示及び特別展示とも観覧者数は目標に届かなかったが、各展覧会の魅力が伝わるよう、配置の工夫や関連事業を実施するなど、展示のねらいを効果的に表現することにより、常設展示、特別展示とも満足度及びリピート率は目標を達成することができた。また、インターネット上で展覧会を動画により紹介するなど、多様なニーズを捉えた取組を実践した。今後、コロナ禍において、入館者の拡充が望めない現状で、新たな取り組みを創造しながら実施していくことが重要であるとともに、各展示への興味・関心を高める方策についても検討していく必要がある。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	70回	43回	61.4%	C	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響により、多くの関連事業が中止となり、また、人数制限を実施したため、回数、参加者数とも目標を達成できなかったが、午前、午後に分割、予約制にするなど、開催方法を工夫して実施し、事業の充実に努めた。
	教育普及プログラムの参加者数	4500人	1481人	32.9%		
	教育普及プログラムの満足度	80.0%	100.0%	125.0%		
	教育普及事業の状況					
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	1,000人	954人	95.4%	b	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響により、図書コーナーを休止した時期もあったが、開放後は利用者も増え、概ね目標を達成し、また、満足度については目標を達成できた。 HPについては、概ね目標を達成できているが、SNSの発信回数が少ないため、より効果的な発信方法について検討する必要がある。なお、HPについては、令和3年度に改修するため、より活用しやすいコンテンツの作成に努める。 インターネット上で展覧会を動画によって紹介し、美術館に足を運べない方や若い世代などへ情報提供に努めた。 各展覧会毎に学芸員がケーブルテレビや地域FMに出演し魅力発信に努めるとともに、地元広報誌を効果的に活用しより多くの方への周知に努めた。
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	80.0%	87.1%	108.9%		
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持					
	HPアクセス件数	156,000件	143,315件	91.9%		
	メールマガジン等発行回数	実施なし				
	ソーシャルメディアの投稿数	170回	52回	30.6%		
	情報発信の状況					

【基本的運営方針】 Cの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	<p>教育普及活動においては、新型コロナウイルスの影響により、回数、参加者とも目標を達成出来なかったが、人数制限(予約制等)や密にならない場所等での実施など、開催方法を工夫しながら実施し、参加者の満足度は目標を達成出来た。</p> <p>HPは利用しやすい内容に改善する必要がある(令和3年度改修)と同時に、SNSは単に事業の紹介だけではなく、動画など、発信内容を工夫するなど、利用者のニーズに応じた情報の提供方法を検討していく必要がある。</p>

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
調査・研究の 充実度	学芸員による調査報告				b	<ul style="list-style-type: none"> 旭川美術館だより「氷華」の発行を通じて「木の造形」や「道北の美術」について、地道な調査・研究を継続して行い、発信している。 道立美術館の研究紀要に執筆し、全道の美術振興に積極的に取り組んだ。 展覧会活動を通じて、遺族や作家、関連機関から提供があり、多くの二次資料の寄贈を受けた。 作家資料や図書資料等は、継続的に収集・整理し充実を図っているが、図録作成を5年以上実施しておらず、学芸員によるテキスト・論文の執筆や二次資料について、データ化を進めていく必要がある。
	二次資料の状況					

【基本的運営方針】 Dの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	調査研究や資料収集の成果を展覧会の展示構成や解説等に反映させるとともに、展示内容の充実が図られている。また、道立美術館・博物館の研究紀要を執筆し、当館のみならず全道の美術振興に貢献できた。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
地域の関係 機関との連携 状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	実施なし			b	<ul style="list-style-type: none"> 旭川美術館ボランティア「常磐会」と付帯施設運営、広報活動など様々な形で連携の充実を図っている。 旭川美術振興会、旭川市民実行委員会、北海道新聞旭川支社との展覧会はもとより、教育普及事業や広報活動など様々な形で連携した取組を行っている。 木の持つ魅力を味覚以外の五感を使って感じてもらうため旭川農業高校森林科学科の生徒と連携し、スロープトイの実演と木琴づくりのワークショップを開催した。
	ボランティアが活動しやすい場の提供					
	地域と連携した取組の状況					
学校との連携 の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	2校	2校	100.0%	c	<ul style="list-style-type: none"> 出張アート教室の延べ参加者数の達成率が低いのは、他管内の小規模な学校で実施したことにより参加者が少なかったことが原因。 指導者研修については、新型コロナウイルスの影響により本庁主催の長期休業中研修は中止となったが、館独自に教員鑑賞研修を2つの展覧会において、人数制限をして実施した。 修学旅行の自主研修による職場体験などを実施したが、新型コロナウイルスの影響により、例年実施している、地域連携アートプロジェクトが実施できず、また、インターンシップや博物館実習の希望もなかったことから、目標に到達しなかったが、可能な限り、学校からの要望には対応した。
	出張アート教室の延べ参加者数	90人	11人	12.2%		
	指導者研修の延べ参加者数	50人	16人	32.0%		
	学校教育活動への対応数	16件	12件	75.0%		
	参加者・利用者満足度					

【基本的運営方針】 Eの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	<p>新型コロナウイルスの影響により、連携事業は人数制限をしながら実施したことにより目標は達成できなかったが、開催方法を工夫しながら地域、学校と連携して、新しい取組を行うことができた。</p> <p>また、地域連携アートプロジェクトの実施検討や教育局・学校との連携など、コロナ対策を徹底した上で地域の関係機関等との更なる連携の充実に努めていく必要がある。</p>

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
附帯施設の充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	70.0%	—	—	b	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶については、新型コロナウイルスの影響により通年休業。 ・ミュージアムショップについては、常設売店のみで営業し満足度は目標を達成している。 ・喫茶及びミュージアムショップを運営しているボランティア団体と日頃から積極的にコミュニケーションを図るとともに、アンケート意見等について情報共有するなど、連携を密にしてサービスの向上につながるよう努めている。
	ミュージアムショップ利用者満足度	70.0%	71.7%	102.4%		
	事業者と協力してのサービス向上の実践					
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	90.0%	96.0%	106.7%	b	<ul style="list-style-type: none"> ・館内スタッフの対応に関する利用者の満足度については、目標を達成している。 ・ホスピタリティの向上に向け、アンケートにおける改善意見等について、職員間で情報共有するほか、来館者に対し丁寧で素早い対応に努めている。
	ホスピタリティ向上に向けた取組み					
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度	90.0%	97.6%	108.4%	b	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内外の環境への満足度については、目標を達成している。また、日常点検や職員による巡回を行うことにより、施設の安全性保持に努めている。 ・突発的に破損不具合が発生したが、展覧会に支障を来さないよう計画的に必要な修繕を行っている。
	施設安全性保持のための必要な措置					

【基本的運営方針】 Fの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	全般的に目標を達成しており、良好な施設環境を提供出来ている。また、喫茶については、新型コロナウイルスの影響により通年営業出来なかったが、館内の感染防止対策をしながら施設運営を行い、来館者の安心の確保に努めた。今後、より満足度の高い美術館運営ができるよう、コロナ対策も含め改善策を検討していく必要がある。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E